

はじめに

国土交通省では、平成 15（2003）年に公表した美しい国づくり政策大綱の中で、公共事業における「美しさの内部目的化」を宣言しました。また、景観法の施行（平成 16 年）や歴史まちづくり法の成立（平成 20 年）によって地方自治体における景観形成の取り組みがこれまでも増して広がりを見せています。こうした状況から、公共事業の実施において「よい景観」を生み出すことへの必要性和社会的要請が以前にも増して高まっています。

我が国の人口が減少に転じ、今後は都心回帰の方向が強まると考えられます。我が国の都市でもヨーロッパの多くの都市と同様に、都心では歩行者空間が重視され、道路の地下化などにより車両交通・通過交通が地上から排除される傾向が進むと思われまます。

地下式道路では、地上部の環境・景観が通常の道路に比べて飛躍的に向上する一方で、存在感の大きな施設として換気塔の存在がクローズアップされ、多くの場合、換気塔がその道路のイメージを代表することになります。換気塔は、そのデザインや検討プロセスによって、目障りな迷惑施設と捉えられる場合からランドマークとして親しまれるものまで様々です。道路事業に関する市民の理解を得る上で、換気塔は換気機能の確保だけではなく、見られる対象として景観に配慮した計画・設計を行う必要があります。

そこで本資料では、道路事業者や道路行政の担当者に活用していただくことを前提に、換気塔に関する景観配慮の着眼点、方向性、道路事業各段階での検討事項や国内外の参考事例をとりまとめたものです。

本資料の内容検討にあたっては、「換気塔の景観検討勉強会」を設置し、現地調査等を踏まえて議論を行いました。佐々木葉座長ならびに学識経験者委員の皆様には厚く御礼申し上げます。

景観への配慮は事業の構想段階から始まります。道路事業のできるだけ早い時期に本資料に目を通していただきたいと思います。本資料が、道路事業に係わる皆様に活用され、道路景観向上の一助となれば幸いです。

換気塔の景観検討勉強会

役職	氏名	所属（2008.6 現在）
座長	佐々木 葉	早稲田大学理工学術院社会環境工学科 教授
委員	有田 智一	筑波大学大学院システム情報工学研究科社会システムマネジメント専攻 准教授
委員	大窪 健之	立命館大学 COE 推進機構 教授
委員	岡田 昌彰	近畿大学理工学部社会環境工学科 准教授
委員	曾根 真理	国土技術政策総合研究所環境研究部道路環境研究室 主任研究官
委員	福井 恒明	国土技術政策総合研究所環境研究部緑化生態研究室 主任研究官